

令和2年度 第4回いちき串木野の歌人 萬造寺齊顕彰

黎明の地 ふるさと短歌大会集



萬造寺齊顕彰の歌碑（羽島崎神社境内）の隣に設置された
大会入賞者の短歌（プレート看板）

主 催 羽島史跡顕彰会・いちき串木野市・いちき串木野市教育委員会
主 管 黎明の地ふるさと短歌大会実行委員会
後 援 鹿児島県・鹿児島県教育委員会・県文化協会・県歌人協会
市文化協会・南日本新聞社・れいめい羽島協議会



表紙題字 堂元一静氏(書道家)

〔主な経歴〕

2003 世界水フォーラム動書大賞受賞

2005 日本書道美術院展かなの部 全日本書道連盟賞受賞

2006 " 毎日新聞社賞受賞

その他各賞を受賞し、個展も数多く開く。

目次

黎明の地ふるさと短歌大会作品集の刊行にあたって	いちき串木野市長	田畑 誠一	1
選評	審査委員長	鶴田 直樹（歌人）	2
大賞および各部の最優秀賞			8
小学生の部			11
中学生の部			21
高校生の部			31
一般の部			41
留学生の部			48
応募校一覧			50

令和二年度いちき串木野の歌人 萬造寺齊顕彰

第四回黎明の地ふるさと短歌大会作品集の刊行にあたって

いちき串木野市長 田畑 誠一

いちき串木野市は、めざす将来都市像を「ひとが輝き 文化の薫る 世界に拓かれたまち」と掲げ、人が輝き、地域が輝く市政の推進に取り組んでいます。また、教育委員会では、活力ある教育・文化の振興を図り、「ふるさとを愛し、夢と志をもち 心豊かでたくましい人づくり」を基本目標に掲げ、さまざまな事業を展開してきております。

さて、黎明の地羽島地区では毎年、羽島出身の歌人「萬造寺齊」先生を顕彰するため、萬造寺齊先生の墓前で先生がふるさとを思つて詠まれた望郷歌を歌うなど顕彰活動を行つてまいりました。平成二十九年には先生の没後六十年を迎えるにあたり、地域の有志の皆さんが集まつて小説「緑の国へ」も出版されました。

このような中、市といたしましても、近代日本の礎を築く原動力となつた薩摩藩英国留学生が命がけで出発した地でもある羽島に薩摩藩英国留学生記念館を建設し、その偉業をたたえとともに、行政と地域が一体となつて青少年の育成や地域文化の保存、地域活性化に取り組んでいるところです。

この短歌大会は、こうした歴史的背景のある羽島で生まれ育つた歌人「萬造寺齊」先生を顕彰していくとともに、市民が短歌に親しみ、文化の薫るまちづくりの一環として実施しています。今年は、五月二十日から約二ヶ月の間、作品を募集したところ県内各地から三、八一点もの作品が集まりました。集まつた作品は、県歌人協会の御協力の下、厳正なる審査を行い、十月十七日、いちきアクアホールにおいて三十三名の方々が受賞されたところです。

この大会が、千数百年来の伝統的文化である短歌にこれまで以上に親しむきっかけとなり、ひいては文化の振興につながることを期待して刊行にあつたのあいさつといたします。

選 評

審査委員長（鹿児島県歌人協会会長） 鶴田 直樹

羽島出身の歌人萬造寺斉を顕彰し始まった黎明の地ふるさと短歌大会も、第四回を迎えました。今年は新型コロナウイルスの感染が鹿児島にも広がり、学校も休校になり作品が集まるのか危惧していましたが、例年にも増して三、八―一五首の応募がありました。作品をお寄せ下さった皆様、ありがとうございます。

夏ごろも脱げば親しき友のごと我が身を抱く海のそよ風

萬造寺斉が望郷の思いで故郷の自然や暮らしを歌ったように、コロナ禍の中、当たり前の日常がどんなに尊く、友達に会えないことがつらいのか再認識させられました。自粛の日々は内省的な時間を生んだのか、今年は多くの秀歌が寄せられました。

第四回黎明の地ふるさと短歌大会大賞は、薩摩川内市の別府初美さんの次の一首です。

夏草が顔半分を覆ひたる選挙ポスターふるさとに立つ

選挙というのは未来を託すものですが、夏草が茂り候補者の顔を隠したままになっている。過疎の村になりつつあるふるさとへの思いを、選挙ポスターに託して巧みな一首となっています。顔半分に、希望の光を残しました。

次に各部門の最優秀の歌を紹介します。

小学生の部 最優秀賞

文字知らぬ弟ぼくの読み聞かせやっとならったつゆ入りの日に

伊集院北小学校四年 吉見 心羽

楽しい読み聞かせをしてもらって本が好きになった心羽(うらは)さんなのでしよう。自分で本がスラスラ読める四年生になり、まだ文字の読めない弟に絵本を読んであげている優しいお兄さん。弟がやっとならって笑ってくれた喜びを素直に歌にしました。最後の「つゆ入りの日に」も良いですね。これからも兄弟でたくさん本を楽しんで下さい。きっと弟さんも本が好きな人になりますよ。

中学生の部 最優秀賞

テスト前高まる緊張ふるえる字ボキボキ折れるシャーペンの芯

伊集院北中学校二年 福山 美咲

誰もが経験したテストが始まる前の緊張感。つい力が入りシャーペンシルの芯がボキボキ折れ、さらに焦る気持ちが伝わる臨場感のある一首。中高生の皆さんには今しか歌えないこうした学校生活の一コマを、もっと歌にしてもらえたらと思います。

高校生の部 最優秀賞

天草の海を見守るマリア像 今日も船から祈る人あり

神村学園高等部一年 田中 由梨亜

天草崎津教会に近い場所にあるマリア像でしょうか。船人、漁師たちを見守るように岬に立つマリア像。「今日も」とあるので、フェリーで帰省するときだったのだろうか。船が進みマリア像が見えてくると自然と手を合わせ祈る人がいた。動きのある映像の一場面を見事にとらえた一首。地域の人々に根差した信仰をとらえ、静謐感のある歌になっています。

一般の部 最優秀賞

もう夢を語らぬ老母が手花火のごとく小さき七夕祭る

霧島市 有川 陸子

七夕飾りに願いを書いていた昔。今はもうそんな夢を語らなくなった母が、小さな七夕飾りを祭る。手花火という比喻が美しい。四季折々の行事のしつらいをする暮らしが、日本人の精神をつくってきました。お母様の質素で美しい暮らしぶりが偲ばれる秀歌です。

留学生の歌から一首

けっこんの ふくきてあそぶ こどもたち たかいやまやま ネパールのいろ

神村学園専修学校日本語学科二年 DHUNGANNA JAGAT

ネパールの高い山々と美しい自然。そして色鮮やかな美しい民族衣装。ネパールを訪れたことのない私たちにも目に浮かびます。移動や交流の制限された今年、より望郷の思いが高まったことでしょう。短歌を作ることで、想像の翼で故郷へ帰ることができたらと思います。短歌にそうした力があります。

以上大賞等一部しか紹介できませんでしたが、今年も秀作揃いで選考も熱を帯びました。昨年結句の字足らずの歌が多かったことを指摘したところ、今年ほとんど見られませんでした。先生方のご指導に感謝いたします。

この大会で短歌に触れ素晴らしい作品を作った皆さんが、これからも短歌に親しんでくれたらと願っています。

最後に、いちき串木野市をはじめ大会に関わって下さった皆様、コロナ禍の学校運営に苦慮される中、応募して下さった各学校の先生方に心より御礼申し上げます。

黎明の地ふるさと短歌大会の概要

一 趣 旨

本市が輩出した歌人、萬造寺齊氏を顕彰するとともに、市の将来都市像「人が輝き 文化の薫る 世界に拓かれたまち」と教育行政の目標である「ふるさとを愛し 夢と志をもち 心豊かでたくましい人づくり」の体現を目指します。

二 主催等

- (一)主 催 羽島史跡顕彰会、いちき串木野市、いちき串木野市教育委員会
- (二)主 管 黎明の地ふるさと短歌大会実行委員会
- (三)後 援 鹿児島県、鹿児島県教育委員会、県文化協会、県歌人協会
市文化協会、南日本新聞社、れいめい羽島協議会

三 応募作品数について

- (一)小学生の部 千二百四十二首
 - (二)中学生の部 千六百七十九首
 - (三)高校生の部 七百十三首
 - (四)一般の部 百八十一首
- 計 三千八百十五首

四 各賞について

【入 賞】

- 大 賞 全部門の中から一名
 - 最優秀賞 各部門一名（小、中、高、一般の四部門）
 - 優秀賞 各部門一名
- 〃

市長賞	各部門一名（小、中、高、一般の四部門）
県歌人協会賞	各部門一名
選者賞	各部門一名
教育長賞	各部門一名
南日本新聞社賞	各部門一名
留学生賞	全部門の中から四名
特選	【小 二十首】 【中 二十首】 【高 二十首】
入選	【小 三十三首】 【中 三十首】 【高 三十首】
	【一般 二十首】
	【一般 三十首】

五 表彰式について

日時 令和二年十月十七日（土）午後一時三十分から

会場 いちき串木野市「いちきアクアホール」

式順 ヘオープンニング 萬造寺 斉の紹介

開会のことば

実行委員会あいさつ……………川口勝則会長

市長あいさつ……………田畑誠一市長

来賓・主催者紹介

表彰

選評……………鶴田直樹審査委員長

閉会のことば

六 選者（予備審査及び本審査）

鶴田 直樹

所属等 県歌人協会会長 にしき江主幹 読売新聞薩摩よみうり文芸歌壇選者

表彰 平成二十七年南日本文化賞受賞（錦江社「にしき江」）

鏑流馬 みどり

所属等 県歌人協会事務局長・県歌人協会青少年短歌育成副委員長 結社「黎明」運営委員

表彰 平成九年黎明（結社賞）受賞 平成十五年平成の歌会平安神宮賞受賞

黒瀬 圭子

所属等 県歌人協会運営委員 にしき江編集委員

表彰 第七回海南賞

寺地 悟

所属等 県歌人協会運営委員 南船社編集委員 日本歌人クラブ鹿児島県代表幹事

表彰 平成四年鹿児島新報文学賞 平成三十年第33回国民文化祭文部科学大臣賞

作品 歌集「幻化」（平成十年）

泊 興子（一次選者）

所属等 県歌人協会会員 新アララギ会員（結社名「新アララギ」）

表彰 平成二十六年鹿児島アララギ年度賞

大賞・各部の最優秀賞

【黎明の地ふるさと短歌大会 大賞】

夏草が顔半分を覆ひたる

選挙ポスターふるさとに立つ

薩摩川内市 別府 初美

【小学生の部 最優秀賞】

文字知らぬ弟ぼくの読み聞かせやつとわらったつゆ入りの日に

日置市立伊集院北小学校四年 吉見 心羽

【中学生の部 最優秀賞】

テスト前高まる緊張ふるえる字ボキボキ折れるシャーペンの芯

日置市立伊集院北中学校二年 福山 美咲

【高校生の部 最優秀賞】

天草の海を見守るマリア像今日も船から祈る人あり

神村学園高等部一年 田中 由梨亜

【一般の部 最優秀賞】

もう夢を語らぬ老母が手花火のごとくはは小さき七夕祭る

霧島市 有川 陸子

小学生の部

優秀賞・市長賞・県歌人協会賞・選者賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

竹の子がビリビリビリとむけてくる十二ひとえのきがえのようだ

いちき串木野市立生福小学校二年 東 綾苺

【市長賞】

だし

山車はしる夏のあつきもなんのそのとびかうかけ水七色のにじ

いちき串木野市立市来小学校六年 浦田 真克

【県歌人協会賞】

なつぞらにひびきわたるよたいこの音^ねわたしの心もトントンおどる

いちき串木野市立市来小学校三年 和田 亜里咲

【選者賞】

まわしつけ力いっばいすもうとるじん社のかみさまおうえんしてる

薩摩川内市立里小学校二年 清藤 圭

【教育長賞】

じでんしゃのほじよりんなくてへっちらだたくさんこけてないたわらった

薩摩川内市立里小学校一年 池田 妃寿

【南日本新聞社賞】

おく深くねむる牛面あばれだす太郎の声が家までとどく

いちき串木野市立羽島小学校六年 楮山 仁智

【特 選】

大楠の木の前でまう花吹雪落ちてまたまう桜花びら

始良市立蒲生小学校六年 野村 悠月

公園で遊んで見下ろすきんこうわん海へとしずむ夕日のボール

始良市立西始良小学校四年 吉村 泰斗

こどもらのあんぜんまもるヒーローだきいろいはたのスクールガード

いちき串木野市立旭小学校一年 中尾 美咲

負けられないアクアホールでかるたとりバシバシとる音ひびきわたる

いちき串木野市立旭小学校六年 久保 楓華

きみどりとみどりにわかれてやましずかかんむりだけにきょうもおはよう

いちき串木野市立冠岳小学校一年 前田 夢奏

こっせつし学校行くのこわかったときどきしたよはじめだから

いちき串木野市立羽島小学校四年 小野 明日

かぶと虫よう虫一びきほしかった友だちくれて家でそだてた

いちき串木野市立市来小学校三年 本鍋田 朔也

闇の中灯りと共に街をいくおはやしの音はふるさとの音

いちき串木野市立市来小学校六年 石堂 未遥

メンドンにはなのあなまでススぬられおかげさまで今年も元気

指宿市立利永小学校二年 西元 仁菜

湯湾岳トウルルルルとアカシヨウビン目をとじてみるすてきな合唱

宇検村立田検小学校五年 富山 桜妃

桜島夕やけまとしてすまし顔私にも着せて夕やけのゆかた

鹿児島市立伊敷小学校六年 大田 和佳

フェリーからふと目をやると桜島私の背中をぐいと押すよな

鹿児島市立伊敷小学校六年 鳥居 咲良

たくさんの春に囲まれ風香り心の中のつぼみが開く

鹿児島市立西陵小学校六年 林 彩葉

すきとおるかがやく苔の涼しきよ海までとどけ縄文の川

目の前の太い大綱もちよれば足をふんばりいざいどむとき

奄美ではきれいな海にうみがめが海のそこから泳いで来たよ

フランコをゆるくこいだらしお風と一年生がかけよってくる

夕ごはん海の命を南ばんづけ卵たつぶりじいちゃんのじゃこ

伊作だいいこ白さぎのごとくまいおどるぼくもつづくぞ伝統の道

体はりてきにぶつかりボールとるゴールを決めた夏の青空

【入 選】

大楠がおこした風が運びこむさくらのかおりとうぐいすの声

夕ぐれのサンセットパーク海の上二つの夕日ずっと見てたい

長島のミカンの根元カブトムシ祖父とぼくの秘密の場所だ

浜競馬馬の速さにたまがってしりもちついて試合が見れぬ

照島の砂浜走る馬たちよ尾先なびかせ今風になれ

おおさとのまちながれるかわのみずたんぼをみどりにかえていくよ

鹿児島市立西田小学校六年 重村 一輝

薩摩川内市立隈之城小学校六年 橋元 杏果

薩摩川内市立隈之城小学校六年 古里 唯羽

薩摩川内市立里小学校三年 外島 莉奈

薩摩川内市立里小学校六年 本 青空

日置市立伊作小学校六年 原田 昂

日置市立伊集院北小学校四年 黒木 琉楓

始良市立蒲生小学校六年 清原 蘭

いちき串木野市立羽島小学校三年 楮山 未来

いちき串木野市立羽島小学校五年 上 裕紀

いちき串木野市立照島小学校五年 森山 遥斗

いちき串木野市立照島小学校六年 下園 紗也

いちき串木野市立市来小学校一年 加治屋 心和

なつによるなかなかいえにはいらずにパパといっしょにキャッチボール

なみの音うまの足音人のこえここは海べのオーケストラだ

いちくしき野元気いっばいあるんだよ元気力はつでんできたらしいな

おぎおんさあナイチヨのかけごえまちじゅうにひびきわたるよいちきのなつの上

だいすきだおおきなからだピンピカでくろとぎんいろくしきのマグロ

はしまぎきわかきはんしがきりひらくにほんのみらいむねにだいて

ようやくねボールをけてうれしいよこれからずっとサッカー少年

大里にとどろくたいこつくいもんあつきもふきとぶ七夕おどり

トラがきたおおぎと田んぼ走りだすぼくもいっしょにおいかけまわる

音楽が流れ始めて山車がでるぎおん祭りが始まる合図

祇園祭せいっぱいの声ひびきたいこの合図さあ始まりだ

砂はまにこしかけてみると目にはいる心かなでるサンセットパーク

潮風と小さくなつたランドセルまといて帰るいつもの田道たみち

ほたる飛ぶ光輝く清流のまばたき惜しむぼくのひとつみが

いちき串木野市立市来小学校一年 西中間 祐成

いちき串木野市立市来小学校二年 久見瀬 優花

いちき串木野市立市来小学校二年 鈴木 晴太朗

いちき串木野市立市来小学校二年 松木田 英那

いちき串木野市立市来小学校三年 内倉 逸才

いちき串木野市立市来小学校三年 野崎 心陽

いちき串木野市立市来小学校三年 南 熙維

いちき串木野市立市来小学校三年 福山 里依咲

いちき串木野市立市来小学校三年 和田 大貴

いちき串木野市立市来小学校四年 上野 小椛

いちき串木野市立市来小学校六年 濱寄 夏帆

いちき串木野市立市来小学校六年 久松 香織

いちき串木野市立市来小学校六年 福山 依己里

いちき串木野市立市来小学校六年 江口 優輝

夏木立冠岳の山間で僕の背中は風に押される

ウミガメを放流したらふと思う春に散りゆく桜みたいだ

もともとはとなりのあき地うめられて少しこいしいあき地のつくし

音楽に合わせておどる人たちはおどりきるんだ最後の一音

大つなでかみしも分かれつなをひく終わるとみんななみだをながす

応援とかけ声ひびく夜のまちつなを引き合いあせ地に落つる

島をはなれ東京旅行飛行きで日本が海にうかんで見えた

風に乗りやすい泳ぐこいのぼりわたしの心もたなびいている

潮風と船の汽笛で見送った涙と笑顔島立ちの春

手をつなぎ祖父の家へと歩く道おかえりなさいとゆれるカノコユリ

おたけの山花が咲いた木葉つばの木しぜんがたくさんぼくの中之島

日が落ちて吹上浜に海がめが命を生みにふる里へ来る

千本桶入ったとたんそこはまるで小人になれる不思議な世界

いちき串木野市立串木野小学校五年 外菌 知宏

指宿市立山川小学校六年 近藤 光汰

薩摩川内市立隈之城小学校六年 天辰 仁

薩摩川内市立隈之城小学校六年 有村 楓耶

薩摩川内市立隈之城小学校六年 久保田 永遠

薩摩川内市立隈之城小学校六年 堀之内 未央

薩摩川内市立里小学校四年 後藤 伝真

薩摩川内市立里小学校五年 清藤 葵

薩摩川内市立里小学校六年 野間口 美桜

薩摩川内市立中津小学校四年 川道 礼夢

十島村立中之島小学校四年 小原澤 択海

日置市立伊作小学校六年 小野 夏姫

日置市立伊作小学校六年 坂口 姫愛

【佳作】

りんりんと家の風りんしゃべり出す宿題しながら風の音聞く

始良市立西始良小学校四年 濱田 結衣

下校中うしろを見ると大ふんか今日も今日とて見守られている

始良市立西始良小学校六年 三嶋 悠人

しんけんに集中しあうかるたとり耳でよく聞きすばやく取るぞ

いちき串木野市立旭小学校六年 邑上 樹愛

みずのおとほたるきらきらあらかわの田んぼのおこめすくすくそだつ

いちき串木野市立荒川小学校二年 大崎 楓馬

学校でだいじにそだてたやさいたち「大きくなあれ」とねがいをこめる

いちき串木野市立荒川小学校二年 上園 崇仁

西だけでみんなを見てるじよふくぞうどすんとかまえて元気いっぱい

いちき串木野市立生福小学校三年 川寄 封享

さるもいて鯛も釣れるよおきのしまおにの岩場がわすれられない

いちき串木野市立生福小学校三年 外蘭 夏葵

ウオーキングハキロメートルがんばればじよふくさんはおおえんしてる

いちき串木野市立生福小学校四年 津村 紗花

その背を見るたびにふと思いだす焼酎を仕こむ働く父の姿

いちき串木野市立生福小学校六年 有馬 輝奈

生福はおいしい空気で気持ちいい風がふいたら気分が変わる

いちき串木野市立生福小学校六年 川寄 姫歌

さそわれて海の香りやマグロ船笑顔で帰港大漁旗

いちき串木野市立生福小学校六年 昌子 結音

西岳が見守る下で田植えするふるさとの風かおる風景

いちき串木野市立生福小学校六年 松田 采華

きれいだな初夏のアジサイピカピカと庭をいろどる花火みたい

いちき串木野市立川上小学校四年 税所 美響

田んぼさんたくさんタニシ取ったから米をたくさんみのらせてよね

照島の潮のにおいに身をゆだね窓の外にはせみの鳴き声

ふるさとのかるたであそんでみたらどうおとなも気づくみりよくいっばい

かるたとりまけない気もちで手をのばし声えんを背にがんばるわたし

夏休みラジオたいそう行くときにクワガタムシをつかまえないな

ゆう大なふるさと自然にかこまれてまぐるもぼくも大きく育つよ

ぎおん祭りみんなでおどれば聞こえてくるたいことすずの音夏まつさかり

市来の子木にかこまれてそだってく心しずかにそだっていくよ

串木野のマグロラーメンたいらげて塩風がふく港を走る

食のまち千年さきまで残したいマグロの大群きらめく海に

地面つき子宝繁栄願いこめみんな一緒に「ダーセンケボボ」

なの花が風に合わせておどってるお花のダンス山川の町

ガジュマルをガツチリつかみてっぺんで海を見おろすこれが日常

たくさんの歴史をつくった先ばいのかがやきむねにきつまを愛す

いちき串木野市立照島小学校五年 中之藪 唯愛

いちき串木野市立照島小学校六年 中野 美友

いちき串木野市立市来小学校二年 溜池 悠里

いちき串木野市立市来小学校三年 宇都 野乃香

いちき串木野市立市来小学校三年 裕永 優心

いちき串木野市立市来小学校四年 湊脇 琥太郎

いちき串木野市立市来小学校四年 脇園 憂衣

いちき串木野市立市来小学校五年 前田 翼

いちき串木野市立串木野小学校六年 副島 優翔

いちき串木野市立串木野小学校六年 萬造寺 祐斗

指宿市立利永小学校五年 久保 一粹

指宿市立山川小学校六年 田上 蓮

宇検村立田検小学校五年 川畑 優翔

鹿児島市立伊敷小学校六年 末永 釉菜

桜島小みかん作るおじいさん見える背中がほこらしき語る

胸はずむ船乗り行くはこしき島でむかえうれしい祖父母と海よ

家を出てゆう便来てるか見てみれば白いポストが灰かぶってる

鹿児島の桜島見ればうつとりと立ち止まる人の心動かす

知覧茶のにおいただよ一本道一枚葉を取り五感で楽しむ

窓開けて新茶のかおりそよ風に乗ってとどくよ溝辺の丘に

たのしみは鳥の声や虫の声自然の中を一人走る時

綱引きはみんなでいきをあわせたら321で引き合おう

ホタルみて心に写真やきつけるほんわり光る川内川だ

隈之城神社が多い神様がいつもみているみんなのえがお

まどの外どこまで続く青空が笑い声まで空色にそまる

甌島さがしてみたい化石達海や山には感動がある

ホタル見たピカピカ光る命だね未来にも見せたいホタルのかがやき

ピカピカときれいなほたるとんでいる川のちかくで遊んでいる

鹿児島市立伊敷小学校六年 長瀬 優奈

鹿児島市立伊敷小学校六年 橋口 尚哉

鹿児島市立西陵小学校六年 鳥原 楽美

鹿児島市立西陵小学校六年 馬渡 美歩

鹿児島市立中州小学校六年 田中 総一郎

霧島市立竹子小学校六年 間世田 大武

霧島市立高千穂小学校六年 風戸 心愛

薩摩川内市立隈之城小学校六年 中原 徳彦

薩摩川内市立隈之城小学校六年 日笠山 心優

薩摩川内市立隈之城小学校六年 米盛 真由

薩摩川内市立里小学校五年 是枝 美緒

薩摩川内市立里小学校五年 橋口 妃奈乃

西之表市立古田小学校五年 片山 佐理

西之表市立古田小学校五年 酒匂 蒼空

うみがめが吹上浜に産卵しなみだながして海へ帰ってく

日置市立伊作小学校六年 上村 遼成

伊作児童いろはかるたの知を学びみらいの児童にうけついでゆく

日置市立伊作小学校六年 西羽田 翔太

楽しみは吹上浜のパトロール海ガメが来てたまごをうむとき

日置市立伊作小学校六年 福田 星来

うみがめのたまごがかえりはまべにて子がめほうりゅうおおきくなあれ

日置市立伊作小学校六年 三好 あやめ

ウミガメがやってくるのは江口浜わがふるきとは生命のもと

日置市立伊作田小学校六年 中村 謙心

砂浜が金色光る江口浜ザブンザブンと波達歌う

日置市立伊集院北小学校六年 熊野 星那

中学生の部

優秀賞・市長賞・県歌人協会賞・選者賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

きらきらと輝く海に太陽がゆっくりそつと潜って帰る

いちき串木野市立羽島中学校一年 松元 識穂

【市長賞】

残り二秒ぼくの手の中ボール有りこの一本で試合を決める

日置市立伊集院北中学校二年 清水 一真

【県歌人協会賞】

寂しさとやる気を荷物に入れたときふとよみがえる故郷の日々

ふるさと

鹿児島純心女子中学校二年 迫田 みなみ

【選者賞】

少しでも会ってみたかったおじいちゃん生まれかわりと言われる私は

出水市立出水中学校二年 中道 彩静

【教育長賞】

家の中さびしく響く「ただいま」が時に返され響きはずむ

鹿児島市立吉田南中学校二年 永江 陽菜

【南日本新聞社賞】

日暮れ時せみの声背に帰り道あなたの影にぼくが重なる

日置市立伊集院北中学校二年 吉満 幸介

【特選】

ゆうやけにツルの鳴き声聞きながらオレンジ鉄道今日も走ってる

暑い中課題にはげむ夏休みセミの鳴き声シャーペンの音

声そろえ徐福横目に山車引いたふるさとつなぐ伝統の路

午前午後時間知らせるチャイムの音今も変わらず鳴りひびいてる

砂が舞い潮風かおる浜競馬しぶきで光る吹上の浜

ぎおん祭り夏に近ずき鳴りひびくたいこの音が風にふかれて

幼い時お母さんに入ったおふる今よりずっとポカポカしてた

きらきらと海に溶け込む太陽が漁師の汗に照り付けてゆく

歩くたび砂浜に刻む足跡が振り返るたび波に消えゆく

バレンタイン「今年もないさ」ゆつくりと…靴箱みると「今年もない」

参道に初せみの声響いてる拝殿の風ふきぬけて夏

暗闇に月光受ける鹿の角神宮に続く道の途中で

夕波とともに満ちてく恋心君への思い最大潮位

出水市立出水中学校二年 西東 心愛

出水市立出水中学校二年 佐藤 駿颯

いちき串木野市立生冠中学校一年 町田 美有

いちき串木野市立市来中学校三年 久保 朱李

いちき串木野市立市来中学校二年 淵上 元貴

いちき串木野市立市来中学校一年 柳園 大和

いちき串木野市立串木野西中学校二年 川畑 純愛

いちき串木野市立羽島中学校三年 楮山 世來

いちき串木野市立羽島中学校三年 堀切 颯真

鹿児島市立吉田南中学校二年 大山 世來

霧島市立霧島中学校一年 坂元 彩乃

霧島市立霧島中学校三年 福元 颯汰

薩摩川内市立里中学校二年 西菌 里津

参道を色どる騎手の服なびき馬かけぬける流鏑馬祭り

現代に武士が復活伊集院ただけしい声町鳴り響く

午後六時部活終わりに陽にそまる僕が恋した君の横顔

黒板をノートに書き終え隣見るうたたねしてる隣の男子

振り抜いた打球は夏のスタンドへ金属音は歓声と消え

きばらん海みんなで盛り上げ笑いあうかつおと一緒に進む枕崎

なつかしき海のひびきを聞きたいなゆさぶられたいあの潮風に

【入選】

くもり空私のつぶやきぼそぼそと青い夏空近寄ってきた

若き命飛びたったのち海に散る教科書の文字祖父らの記憶

ツルが来たカメラをのぞく大人達ツルも見せ場と心がおどる

英国へふるさと思ひ十九人彼らを変えたぼくらの明日

長き道入道雲を追いかけて夢中で走る幼子のように

夏畑祖父が運転トラクター耕す土を見つめる私

曾於市立末吉中学校一年 末川 恵梨

日置市立伊集院北中学校一年 内田 陽仁

日置市立伊集院北中学校二年 上江 聖

日置市立伊集院北中学校二年 関野 美結

日置市立伊集院北中学校三年 内門 侑理

枕崎市立桜山中学校二年 中村 優香

神村学園中等部一年 玉城 尚良

出水市立出水中学校二年 澤田 凜音

出水市立出水中学校二年 町口 千夏

出水市立鶴荘学園九年 出田 真央

いちき串木野市立生冠中学校二年 谷口 円花

いちき串木野市立生冠中学校三年 諏訪 麻里亜

いちき串木野市立市来中学校一年 窪田 真紀

友達ともしもり食べる夏まつり僕は太るが財布はやせる

3階の窓を横切る漁船の影うつすら見える開閉かいもんを背に

ふるさとはふとしたときにおもいだす心の中の一輪の花

激戦の様子伝える銃弾跡受け継がれていく鶴丸城

太陽が我われをにらむ縁側えんがわでとけるシロクマ氷山ひょうざんの如く

秋晴れに一心不乱に舞う神楽目指すあの人思い浮かべて

セミ捕りに祖父ときていたあの森はソーラーパネルただあるだけで

夕闇に沈む我が家の屋根の上高千穂の峰は燃えて輝く

果てしない海をみれば胸がすく甑の風が我が身を揺らす

やぶさめや馬のひずめがなりひびくみんなの心的見ていぬく

祖父と祖母いたみこらえて田植えするその姿見て先祖に感謝

よろい着て神社へ行進歌いだす島津たたえる伝統行事

地区総体七人の思いこの胸に最後のぶたい全力疾走

早くつけ最後に聞かせて祖父の声先に見えるは黒い海だけ

いちき串木野市立串木野西中学校三年 中野 李胤

いちき串木野市立羽島中学校三年 前田 大吉

鹿児島市立坂元中学校一年 三宅 薫美

鹿児島市立坂元中学校三年 荷福 和奏

鹿児島市立坂元中学校三年 松本 匡生

霧島市立霧島中学校一年 松木 皇君

霧島市立霧島中学校二年 浦野 友杏

霧島市立霧島中学校三年 山下 鴻大

薩摩川内市立里中学校二年 石原 翼

曾於市立末吉中学校一年 上床 篤浩

日置市立伊集院北中学校一年 上野 結衣

日置市立伊集院北中学校一年 森下 凌志

日置市立伊集院北中学校二年 小田 佳凜

日置市立伊集院北中学校二年 徳留 叶舵

青空に浮かんで消えた白い雲悪しき心も消えてなくなれ

だんだんと消しゴムの角丸くなり受験に向けて対策進む

雨の音が目覚ましとなる六月の重い心はいつ晴れるやら

買えるよになつてからくるアベマスク今さらきても誰も使わず

あの田んぼこの田んぼからかわりゆく私の町はどこへ消えゆく

妹も鬼も逃げ出す灼熱の燃えるやぐらと正月飾り

まいにちが密の関係変化して気がつく日々のありがたさかな

なにしにきたプロになるためここにきた見しらぬ人に見しらぬ土地に

天降川夕日に照らされ輝いて鮎のうろこも光りを放つ

マンションの窓から見える桜島いつも見ているわたしを見てる

【佳作】

シャーペンのかちかちびくしんの音みんなでならせば音楽のよう

ひいばあちゃんあの日の笑顔思い出すあなたのぬくもりかみしめながら

やってきた自分もかがやく大舞台いつものようになれるわけなく

日置市立伊集院北中学校二年 山下 陽海

日置市立伊集院北中学校三年 内田 菜々

日置市立伊集院北中学校三年 久冨木 万恵

日置市立伊集院北中学校三年 徳富 滉人

鹿児島純心女子中学校二年 福田 葉菜

神村学園中等部二年 末永 天晴

神村学園中等部三年 有村 天姫

神村学園中等部三年 井上 海童

神村学園中等部三年 岩下 心々愛

神村学園中等部三年 後藤 未来

出水市立出水中学校二年 岩塚 健斗

出水市立出水中学校二年 高橋 安紗美

出水市立出水中学校二年 橋口 小雪

夕方のいろんなとこでなりひびくみんなの声と楽器の音が

昨日まで日々を送りしこの町も今日これからは恋しき古里

波の音風に運ばれ宿す夢空から見守る上弦の月

冠嶽園ホテルが飛び交ういくつもの輝く光は未来の扉

ちようちゃんにあわくてらされゆらめくよおぎおんさあのゆるやかな声の色

炎天下祖父の田植えを手伝うと青田にうつる雲の峰

伝統は新たな病魔で中止され聞けなくなるお祭りの音

一日中男女の声が夜中までひびけつづけるぎおん祭り

熱い声足音ともにかける潮風かおる良き戦いだ

君の目の瞳にうつる照島を我は見つめる君の横顔

窓の外さざ波にのり船出港ガラスに写る祖父の面影

夏風にさらわれ飛んだ麦わら帽子川面に映り流れていく日

じいちゃんが教えてくれた魚釣り命の大事さ自然への感謝

しづく落ちぼつんとなった澄んだ青バス停のすみのアジサイの花

出水市立出水中学校二年 森田 さくら

出水市立鶴荘学園九年 森崎 すみれ

いちき串木野市立生冠中学校二年 久保 美月

いちき串木野市立生冠中学校二年 古市 聖剛

いちき串木野市立市来中学校一年 北村 心桜

いちき串木野市立市来中学校一年 竹下 颯

いちき串木野市立市来中学校一年 橋本 信平

いちき串木野市立市来中学校一年 長谷川 弥恩

いちき串木野市立市来中学校三年 三窪 楓

いちき串木野市立串木野中学校二年 宮 捺姫

いちき串木野市立串木野中学校三年 篠原 叶百華

いちき串木野市立串木野中学校三年 橋元 祐里

いちき串木野市立串木野中学校三年 濱田 琥舶

いちき串木野市立串木野西中学校一年 中野 萌禾

地区陸上晴れるといいな明日はね百メートルタイムちぢまれ

変わりゆく時代にさからう母の愛この愛こそ私のふるさとすがた

桜島いつもみんなを支えてる一人一人の心の中で

鹿児島の大黒柱桜島今日も炎を噴いて暴れるふ

海の上どうどくと立つ桜島鹿児島をいつも見守っている

鹿児島島の小道を少し歩いたら今この時季の紫陽花を観る

目を閉じて思い浮かぶは薩摩の白い人生のよう坂多き道

窓越しにそびえ火をはく桜島風に流され暗雲の空

天の川思い出すあの天文館見上げるものは君かレンズか

ふるさとはいつも変わらず待っているひまわりが言うおかえりなさい

春の朝窓を開けると鳥の声やさしい風が私を包む

大空とこの悩みを比べても負けぬくらいの悩みの深さ

感動をトロンボーンで奏でたい夢へ向かって響け！Myサウンド

バレー部で歓声あふれる体育館チームで協力ボールを上げる!!

いちき串木野市立串木野西中学校一年 土川 柊子

いちき串木野市立串木野西中学校三年 黒木 瑠莉

鹿児島市立坂元中学校一年 島田 亜美

鹿児島市立坂元中学校一年 永原 寛大

鹿児島市立坂元中学校一年 柳田 絢香

鹿児島市立坂元中学校一年 鷲尾 和孝

鹿児島市立坂元中学校二年 渋谷 みう

鹿児島市立坂元中学校三年 中尾 彩奈

鹿児島市立坂元中学校三年 森永 大翔

鹿児島市立坂元中学校三年 山下 結菜

鹿児島市立吉田南中学校二年 荒川 涼夏

鹿児島市立吉田南中学校二年 清水 脩斗

鹿児島市立吉田南中学校二年 酒匂 麻衣

鹿児島市立吉田南中学校二年 西森 彩夏

帰り道心静まる雨の音たった一人の僕の世界

朝起きて耳に届く雨の音聞いてるだけで心もブルー

砂浜にさざめく波の静けさや耳に手を当て故郷想う

放課後の楽器に反射して気付く遠い夜空霧島連山

霧島の山から聞こえる蟬時雨夏の訪れ風薫るとき

見渡せばとびこんでくる木々の青そこに聞こえる鳥の囀り

潮騒や甑の海に鳴り響く夕日が私の心を染める

島立ちや甑の海で思い出す姉との時間はかない思い

おやつとさあ心がつながる合言葉なんだかとても心おちつく

いつの日か思い出す時ふるさとよ梅のにおいが心にかおる

浴衣着た君と話して上の空遠く聞こえる花火の音や

夏になりバレーボールで汗流し流した汗は努力のあかし

真夏日に楽器の音色とせみの歌みんなで合奏夏の祭典

こんがりと焼けた肌を嘆く君その肌色は努力の証

鹿児島市立吉田南中学校二年 養毛 陽翔

鹿児島市立吉田南中学校二年 森尾 通

肝付町立岸良中学校三年 岩崎 雅弥

霧島市立霧島中学校一年 松元 めい

霧島市立霧島中学校二年 窪田 結斗

霧島市立霧島中学校二年 中村 美羽

薩摩川内市立里中学校二年 是枝 陸希

薩摩川内市立里中学校二年 濱邊 心乃

曾於市立末吉中学校一年 大路 古都寧

日置市立伊集院北中学校一年 川畑 結愛

日置市立伊集院北中学校二年 小池 隼太

日置市立伊集院北中学校二年 佐々木 晶

日置市立伊集院北中学校二年 立野 歩美

日置市立伊集院北中学校二年 田淵 絢乃

地区総体九人で挑む最後のぶたい気合いが入るボールと私

期末試験だんだんせまる緊張感めざせ自分の最高得点

あふれてる自然と地域の優しさが育まれている豊かな心

山のぼる肩にくわけ今日もまた竹の子取りに期待高まる

きそい合うプレイボールとセミの声選手たちのあつき思いと

思い出す顔に日が照る休み時間雲がひらいた一瞬の時

暗闇に落ちていくのは私の心救ってくれた家族の声

段ボール潮風薫る小みかんにひと口大の祖母の温もり

輝きをまとった君は泣いていた友思いつつ桜の下で

暗闇の空を照らすは未知の星まばたきしたら見逃しそうで

日置市立伊集院北中学校二年 飛松 るな

日置市立伊集院北中学校二年 西 美咲希

枕崎市立桜山中学校二年 福元 優

南大隅町立根占中学校二年 大久保 汐里

南大隅町立根占中学校二年 竹下 慶哉

南大隅町立根占中学校二年 平瀬 夢

鹿児島純心女子中学校二年 壽福 花音

鹿児島第一中学校三年 中村 亮輔

神村学園中等部一年 月元 智鹿

神村学園中等部三年 吉留 心菜

高校生の部

優秀賞・市長賞・県歌人協会賞・選者賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

早朝の畑から帰って来た祖父は育てたみかんのような笑み

県立川内商工高等学校一年 下大迫 聖真

【市長賞】

温かな母の夕食類張れば尖った心やさしく溶ける

県立市来農芸高等学校三年 二宮 愛瑞美

【県歌人協会賞】

寮を出て迎えの母の車降り胸にふるさと吸いこんでいる

県立川内商工高等学校一年 中川 蹴斗

【選者賞】

数取り器ぎゅつとにぎって万羽鶴あふれる想い暁天に舞う

神村学園高等部一年 松元 朝陽

【教育長賞】

体育祭自然にできた円陣は宝となってアルバムにある

県立川内商工高等学校一年 中野 葵

【南日本新聞社賞】

暮れなずむ夕日にそつと耳すます祖父の三味の音在りし日を思う

県立大島高等学校二年 隈元 莉緒奈

【特選】

食べものに興味はないという母が笑顔できびなごさばく夕暮れ

仕方なく始めたはずのボランティア地域の絆確かめており

主役不在寮にて過ごす我よそこに誕生会は盛り上がりたり

島離れ初めて目にす田園ののびる稲穂や我らのごとき

甌島港に待てる家族らの顔が見ゆれば荷物も軽し

農実習牛引く綱に汗流る見上ぐる空に葉桜涼し

不便さも今は愛しきふるさとを目に焼きつける高三の夏

こそそとじいちゃん私にお小遣いバレてるからねと見据える母

初めての祖父の作った味噌汁具が大きくて食べごたいあり

電車から見えるふるさととなつかしい下りていつもの工場において

失敗に流した涙隠すように抱きしめてくれる親友の腕

電話ごしなまりなくしたその言葉遠く感じた姉の存在

努力せず楽な方へと流されるけれどそれこそ僕の哲学

県立串木野高等学校三年 菌田 弥子

県立市来農芸高等学校一年 寺師 彩音

県立市来農芸高等学校二年 榎本 天士

県立市来農芸高等学校二年 山元 陽人

県立市来農芸高等学校三年 中川 桃子

県立市来農芸高等学校三年 春田 雄輝

県立市来農芸高等学校三年 寶満 友稀

県立川内商工高等学校一年 阿南 景華

県立川内商工高等学校一年 伊達 奨悟

県立川内商工高等学校一年 千竈 那成

県立川内商工高等学校一年 中馬 希未

県立川内商工高等学校一年 東郷 莉歩

県立川内商工高等学校一年 中村 透也

わが校の隣りの棟は商業科見渡す限り美女がたくさん
 祖母亡くし寝たきりの祖父枕元一年前のふたりの写真
 まだ暗く教頭も来ぬ並木道道場へ行く楽しみな瞬間^{とき}
 年暮れのこだわりつまる父のそば短すぎたり長すぎたりす
 制服にぬくもり感じる今日の朝背中を押すのはふるさとの風
 情熱と勢子士の声が燃えあがる闘牛こそが私のふるさと
 汗流し田の手入れするお父さん夕日に映える稲穂と背中

【入 選】

留学生の歴史をつづる記念館偉人の勇氣は残り続ける
 ふるさとが泥の中に沈んでいくコロナと暑さと復興する
 せつぺとべ暑いが我慢録踊りよかにせ達は泥にまみれて
 夏のたびボールペンで刻まれし我が成長をとどむる柱
 帰るたび見慣るる光景^{けしき}そこにあり猫まるまって祖母のひざ上
 秋風や初めて握る鎌重し手刈りす稲のたわわになれる

県立川内商工高等学校一年 山元 涼生
 県立川内商工高等学校二年 阿多 美優里
 県立川内商工高等学校二年 有馬 瑠衣
 県立川内商工高等学校二年 永瀬 葵
 神村学園高等部一年 岩元 莉乃亜
 神村学園高等部一年 松永 沙彩
 鹿児島情報高等学校二年 木村 雄晴
 県立串木野高等学校一年 永山 嵐士
 県立串木野高等学校二年 元山 瑞月
 県立串木野高等学校三年 前畑 愛梨沙
 県立市来農芸高等学校一年 坪水 海惺
 県立市来農芸高等学校一年 渡邊 咲楽
 県立市来農芸高等学校二年 西 俊樹

祖母のする昔話に驚きて思わず手を止む草むしりかな

「負けられぬ。」熱き太陽背に負いて氣勢を上げん地区応援団

秋晴れや杵持つ子らの声高くこねしねったぼ大きく頬張る

自販機の前のベンチに腰かけばお喋り止まぬ高三の夏

帰り道ずっと変わらぬ永田川変わりゆくのはぼく達だけで

祖母のいる大川へ行く四十分車内で話す父の思い出

川内の男が騒ぐ綱引きが今年は静か夜の街並み

朝もやの白き風景漕ぎ進み若布のようにはりつく前髪

魚跳ね夢中になって投げたルーア上の電線に気づかなかつた

声荒げ香り漂よう酒とわら高なつてゆく一番太鼓

旧友との脳裏に浮かぶ思ひ出をポケットに仕舞い一歩踏み出す

おちこんで下向きながら帰る道ふと思ひ出す母校の校歌

ただいまが一人暮らしの部屋ひびく冷えたご飯に冷えたみそしる

祖母の家香りただよう線香の行きたび祖父に会えた気持ちに

県立市来農芸高等学校二年 華江 真帆

県立市来農芸高等学校二年 南 快晴

県立市来農芸高等学校三年 川畑 晴花

県立市来農芸高等学校三年 森園 航明

県立川内商工高等学校一年 上野真那斗

県立川内商工高等学校一年 牛ノ濱 汰輝

県立川内商工高等学校一年 楠元 天寿

県立川内商工高等学校一年 桑原 百花

県立川内商工高等学校一年 田島 遥斗

県立川内商工高等学校一年 堂後 あいり

県立川内商工高等学校一年 成枝 永遠

県立川内商工高等学校一年 西須 廉将

県立川内商工高等学校一年 西田 杏蘭

県立川内商工高等学校一年 平 美波

都会から帰った兄は横になる癒されているように陽が差す

祖母と見た人生の人形浄瑠璃言葉をなくし見続けている

十年前キャッチボールを楽しんだ祖母はボールさえ握らなくなり

あることを告げようとしていたあの日夕焼けが僕の心も染めた

教室に一番に来た私だがため息一つ雲り始める

公園のふわつと香る金木犀思い出されるブランコの音

家を出て今日も聞こえるあの汽笛海にいる父思い出す朝

新築の陰に隠れた古家に干したるTシャツ乾かないまま

帰り道風にさそわれふと見れば青い稲の中手を振る祖父母

夕焼けのお馴染みの道歩きつつ変わったことは影の伸び方

【佳作】

広い海覚悟を決めた十九人彼の思いを受け継いでいく

友とみたあの日の海は儚くて波とともに流れる涙

浜競馬馬が砂けり浜走る頑張った先結果が決まる

県立川内商工高等学校一年 藤原 大夢

県立川内商工高等学校一年 三角 捷太郎

県立川内商工高等学校一年 水澤 尚弥

県立川内商工高等学校一年 宮崎 祐大

県立川内商工高等学校二年 桑畑 茜

県立川内商工高等学校三年 岩崎 美帆

県立川内商工高等学校三年 立岩 真白

県立川内商工高等学校三年 西橋 力哉

神村学園高等部二年 内野 咲彩

神村学園高等部二年 南條 華倫

県立串木野高等学校一年 安藤 みずき

県立串木野高等学校一年 木下 誠海

県立串木野高等学校一年 國料 冬音

海のおと聞こえてくる授業中終わってもなお聴き入る音色
懐かしき五反田川に映るわたしと共に大きくなりゆく桜
地平線あの遠くへと旅立った留学生の軌跡の旅路
浜競馬海の白いを感じつつ希望をのせてかけぬけてゆく
ウィルスと戦う日々胸痛む家畜の世話に心癒され
車窓より林の中で猿を見ておもわず二度見し常夏の朝
大雨を告げるニュースの映像に私の知りたるふるさとなきや
螢火を微かに映せし一枚の写真に君の影探したり
大花火歓声消えて残れるは火薬の白い夏の終わりや
夏休み屋台で親のお手伝いコロナ禍の今良き思い出に
生活は一変すれど変わりなく我が家照らすは家族の笑顔
田んぼ道同じ傘持ちはんぶんこまた同じ道歩いて行こう
家を出て新地で暮らし思い出す我がふるさとの穎娃茶の香り
ふるさとの愛情感じるメンチカツ今も変わらぬあの頃の味

県立串木野高等学校一年 寺田 帆花
県立串木野高等学校二年 井之上 咲耶
県立串木野高等学校三年 大井 虎之介
県立串木野高等学校三年 木場 優亜
県立市来農芸高等学校一年 佃 隆太
県立市来農芸高等学校一年 西田 晴菜
県立市来農芸高等学校二年 久保 楓汰
県立市来農芸高等学校二年 長野 佳奈
県立市来農芸高等学校二年 平松 千伽
県立市来農芸高等学校三年 東郷 みく
県立市来農芸高等学校三年 東峯 智昭
県立川内商工高等学校一年 井上 瑛瑠奈
県立川内商工高等学校一年 飯伏 香矢
県立川内商工高等学校一年 籠田 一真

消えていく時代と共にふるさとの唯一無二のかごんま弁

声援は保護者のメガホンきばいやんせ最後の試合一球に賭ける

大雨で今にもあふれそうな川友に会えない休校続く

広がりゆくコビット19ぞっとする高速道路の他県ナンバー

汗共に胸一杯の太鼓の音歓声響く御八日踊り

オレンジの電車にゆられ駅につくとびらが開けば私のふるさと

皿洗い洗濯自分でやっている寮生活で知った感謝

笑い合い「いただきます」の声弾む永久とわにと願う家族団らん

ふるさとの思い感じる農作業多くの人が汗みずたらす

仲間との思い出つまる校庭は苦労の日々も恋しく思う

思い出す川内花火上がる度もう会えない祖父のあの顔

長年の母校の歴史に幕を閉じ思い出語り過ぎさる時間

慣れた口調私は分からぬ鹿兎島弁祖母の声だと心落ち着く

祖父の家季節で変わる花たちのはなしを聴くところ安らぐ

県立川内商工高等学校一年 加世田 紅葉

県立川内商工高等学校一年 川畑 和輝

県立川内商工高等学校一年 國武 侑空

県立川内商工高等学校一年 久保 大紀

県立川内商工高等学校一年 倉津 美咲音

県立川内商工高等学校一年 兒玉 そあ

県立川内商工高等学校一年 小平 峻大

県立川内商工高等学校一年 城之下 奈子

県立川内商工高等学校一年 田上 蘭

県立川内商工高等学校一年 田畑 悠芽

県立川内商工高等学校一年 恒吉 さくら

県立川内商工高等学校一年 中野 瑠七

県立川内商工高等学校一年 中間 琉愛

県立川内商工高等学校一年 永野 双葉

なんとなく置いてある写真だけれどもいつも目に入る愛猫の遺影
一年が経っても今も思い出すお好み焼きの亡き祖母の味

下向いて帰った日でもこの場所がずっとわたしを待っていてくれた

川内川三つの影が橋越える桜が咲けば揺れて消えゆく

大好きだ祖母の笑ったあの目尻優しい声とおしゃべりの訛り

おかえりと迎えてくれたおばさんの元気な声は二度と聞けない

母のカレーどこにでもないうちの味四月は一人暮らし始める

ここにしかない風景がよみがえるふとしたときに大綱引が

登り坂走った寺山野球部のみんなで笑う時間よ止まれ

温泉で「きれいになったね」と祖母の友赤くなる顔タオルで隠す

白浜で耳を覆った貝殻は今でも残る掌中の珠

良いことはなかなかないけど広くて青い吹上浜が私を癒す

コロナくるマスク売り切れ感染拡大これからどうなる我らの日本

水平線沈む夕日をいつまでもみているよ君のとなりで

県立川内商工高等学校一年 東 龍斗

県立川内商工高等学校一年 益満 昊也

県立川内商工高等学校三年 今西 理乃

県立川内商工高等学校三年 高木 華乃

県立川内商工高等学校三年 高崎 華

県立川内商工高等学校三年 西園 双葉

県立川内商工高等学校三年 福田 捺咲

県立川内商工高等学校三年 藤田 麗菜

県立川内商工高等学校三年 向井原 舞

県立川内商工高等学校三年 山下 莉央

神村学園高等部一年 山口 眞采

神村学園高等部二年 角田 奈津

神村学園高等部二年 福本 希和

神村学園高等部二年 牧田 彩花

夕方の混ざった空をうつすのはオレンジ色のスマートフォン

夏の夜川内川の水辺には静かに強く輝く螢

鼓舞道部仲間と過ごしたあの日々は永遠とわに私の心の中に

えんじ色日差しで一層赤色に私の胸もより暖かく

風ふけば茶の香広がるお茶どころのどかに広がる我がふるさとや

田んぼ道祖父と二人で散歩した夕日と風は今も変わらず

錦江湾日の出の瞬間現れる桜島への光の花道

神村学園高等部二年 森田 優唯

神村学園高等部一年 今村 春風

神村学園高等部一年 小田 藍海

神村学園高等部一年 小林 乃彩

鹿児島情報高等学校二年 新原 大智

鹿児島情報高等学校二年 前田 喜保

鹿児島情報高等学校二年 元松 まりん

一般の部

優秀賞・市長賞・県歌人協会賞・選者賞・教育長賞・南日本新聞社賞

【優秀賞】

ここが居間座敷そこかと藪やはに追とう解といて久しきいえのまぼろし

いちき串木野市 火野坂 嵩之

【市長賞】

祖母の顔かさなり碾いた石臼の白きそば粉よこの手も老いて

西之表市 古澤 勝

【県歌人協会賞】

「串木野さのさ」踊りし亡母の編み笠は壁にかかりて七年忌来る

霧島市 松元 とし子

【選者賞】

熟れ初むる葡萄の紺の明るさよ一粒ごとに秘密が洩れる

霧島市 川崎 興子

【教育長賞】

父吊りし蚊帳は深き海の色をさなは微睡み瑠璃貝となる

霧島市 松永 由美子

【南日本新聞社賞】

山里は霧に沈みて朝まだきバイクの音にニュース乗せ来ぬ

霧島市 溜 邦男

【特選】

朝ドラに聞こえく訛り「なじよすつぺ」葱刻む手がふつと止まりぬ

主なき隣りの島に草長けて風もなく揺れ雉子歩み出づ

新らしき国造り求め船出せし若人の声海鳴りに聴く

ぎしぎしと孟宗竹揺れ山城の兵の息吹か夏虫の鳴く

ふるさとにひたむきなりき耕三の照島に歌碑波のさいさい

あめあがりはるかにうかぶしまかげがすこしかじつたるりいろのそら

一日を共にすごしたアベマスク吐息とともに静かにはづす

恐竜の爪の形の椰子の葉がわっしわっしと風つかみゐる

月の夜の渚に群るるオカヤドカリ我も奄美の島に生まれし

てのひらに載りたるスマホは一瞬に地球の裏に咲く花を写せり

旧姓のわれに宛てたるゆうバック父の錯誤も今は懐し

数々の想ひ出だけは遺し置き旅のパンフレット塵に出したり

酔へばふと故郷の訛のなつかしく下津井節など厨に歌ふ

いちき串木野市 内田 ヨシ子

いちき串木野市 奥吉 志代子

いちき串木野市 小原 俊幸

いちき串木野市 黒江 康子

いちき串木野市 中島 タツ子

いちき串木野市 西村 健一

始良市 塩満 暁洋

鹿児島市 石原 鞠子

鹿児島市 石原 百合子

鹿児島市 黒瀬 芙蓉子

鹿児島市 田口 涼子

鹿児島市 東 なや子

鹿児島市 外園 眞佐子

恐竜の爪の形の椰子の葉がわっしわっしと風つかみふる

月の夜の渚に群るるオカヤドカリ我も奄美の島に生まれし

てのひらに載りたるスマホは一瞬に地球の裏に咲く花を写せり

旧姓のわれに宛てたるゆうバック父の錯誤も今は懐し

数々の想ひ出だけは遣し置き旅のパンフレット塵に出したり

酔へばふと故郷の訛のなつかしく下津井節など厨に歌ふ

自肅の日解かれて人の戻る街風やはらかに夏が始る

むらさきの花火の如きアガパンサスコロナ禍に曇る里を灯せり

山里の塔より拡がる溜息に反応している僕のケータイ

一片の雲もなき朝が始動する一人この日を過ごす畑に

蹠踵めける我を支ふる杖ありて泥田のなかの補植は終る

やまももの実朱く熟るる六月のふるさとの家雨だれの音

とび越ゆる程にもあらぬ水鏡杖つく吾を小さく写せり

鹿児島市 石原 鞠子

鹿児島市 石原 百合子

鹿児島市 黒瀬 芙蓉子

鹿児島市 田口 涼子

鹿児島市 東 なや子

鹿児島市 外園 眞佐子

鹿児島市 上之園 杏子

鹿児島市 金丸 淑子

鹿児島市 児玉 久

霧島市 前田 良文

霧島市 前原 ナリ子

薩摩川内市 泊 勝哉

南九州市 横峯 ヨキ

【入選】

年一で友が集まる港町いつまでできる朝帰りかな

風にのり先人の声の聞こえる白銀ノ坂ここぞふるさと

新じゃがと桜かるかん春の香に一筆添えるこちらは元気

幸せは吾子と楽しむ読み聞かせ菜立ちに渡す一冊の本

天に召されてすでに30年おばあちゃんの引き出しの中におしろいありぬ

懐かしい友等と集う我が母校変わらぬ校舎我は白髪

照島の海岸線舞う赤とんぼ夕暮れの晩鐘聴きて散り散り

中山間補助金支えに田植え終ゆ迫る荒地と老いのはざまに

親思い帰り帰らぬふるさとの携帯電話の音だけが鳴る

こもり居のスマホの動画に今日は聴く妹の歌ふレットイットビ―

小綾鶏が出合ひ頭に飛び立ちぬ夏草が占める故郷の道

青虫も見上げていたり梅雨晴れにパパンと咲きしパセリの頂花

枝先に柿の実一つ残しおくカラスのためと母の伝へし

いちき串木野市 伊東 洋一郎

いちき串木野市 内屋 順子

いちき串木野市 梅北 幸子

いちき串木野市 尾場瀬 ちなみ

いちき串木野市 小瀬 めぐみ

いちき串木野市 新町 正

いちき串木野市 濱崎 成人

いちき串木野市 火野坂 幸子

いちき串木野市 前田 尊志

始良市 田中 洋子

鹿児島市 油田 重隆

鹿児島市 飯尾 和子

鹿児島市 海江田 和子

断捨離をせずに良かった眠りゐし昭和の服が春風に揺る

七色の大きな綿菓子得意気にわんぱく通る祭りの夕べ

田植機で植ゑられてゆく里の田よ泥にまみれし遠きにぎはい

ふるさとの話に笑みを取り戻すグループホームに盲し伯母も

夕闇に包まれゐたる夏の空鳥鳴く声空を泣かする

コロナ禍に懐古の時をもらひたり孫なる客に対く盆手前

大地濡らすピアニツシモの雨音は種子播くやうに胸に降りくる

なかなかなかなかにしてなかなかの出来映えなりぬマスク縫ひ上ぐ

赤ちゃんの指ひらくごと花びらの開きて紫陽花にはふ里道

道の駅に籠いっぱいの郷愁をつめてひとりの夕餉を想ふ

谷あひの滝は二段に落ち跳ねてこの山の辺は亡母のふるさと

ふと何故か祈りたくなる美しき五月の空をわが窓が占む

トンネルの壁に浮かびし羽島路は青の織りなす眩しき海が

船人らの漁願相撲の土俵あり激しくぶつかる赤銅の肌

鹿児島市 門松 弘子

鹿児島市 杉本 葉子

鹿児島市 恒益 節子

鹿児島市 中間 郁子

鹿児島市 山形 理由市（隆一）

霧島市 口町 円子

霧島市 窪田 久子

霧島市 河野 史江

霧島市 玉川 マリ子

霧島市 南 房子

薩摩川内市 奥園 和子

薩摩川内市 嶋崎 瞳

薩摩川内市 萬造寺 和子

日置市 坂口 勝美

「整列！」と機械に指示され早苗田は肅々ならぶ朝礼のごと

林立の防霜ファンの静もりて赤い摘採棧点景となる

ふるさとの惚くる母よコロナ禍に帰島ためらひ三つき過ぎたり

南九州市 早川 ヨリ子

南九州市 若松 富士子

熊本県八代市 船間 和子

留学生の部

あおいみず おおきいかわに なつのひる つめたいしぶき ははのこえきく

ブサル ハリ

神村学園専修学校日本語学科二年 BHUSAL HARI

けっこんの ふくきてあそぶ こどもたち たかいやまやま ネパールのいろ

ドゥンガナ ジャガト

神村学園専修学校日本語学科二年 DHUNGANA JAGAT

あさのへや ははとおいのり とりのこえ 目をとじゆれる やさしいひかり

ラジュバンダリ ジュヌ

神村学園専修学校日本語学科二年 RAJBHANDARI JUNU

デートする かわいいあなた いけのよこ きいろいおてら わすれないでね

カトリ クリシナ

神村学園専修学校日本語学科二年 KHATRI KRISHNA

応募校一覽（あいうえお順）

計五十四校

○ 始良市

始良市立蒲生小学校

始良市立西始良小学校

○ 奄美市

鹿児島県立大島高等学校

○ 出水市

出水市立出水中学校

出水市立鶴荘学園

○ いちき串木野市

いちき串木野市立旭小学校

いちき串木野市立荒川小学校

いちき串木野市立冠岳小学校

いちき串木野市立羽島小学校

いちき串木野市立生福小学校

いちき串木野市立川上小学校

いちき串木野市立照島小学校

いちき串木野市立市来小学校

いちき串木野市立生冠中学校

いちき串木野市立市来中学校

いちき串木野市立串木野中学校

いちき串木野市立串木野中学校

いちき串木野市立羽島中学校

いちき串木野市立羽島中学校

鹿児島県立市来農芸高等学校

鹿児島県立市来農芸高等学校

学校法人神村学園中等部

学校法人神村学園高等部

学校法人神村学園専修学校日本語学科

○ 指宿市

指宿市立利永小学校

指宿市立山川小学校

○ 大島郡宇検村

宇検村立田検小学校

○ 鹿児島市

鹿児島市立伊敷小学校

鹿児島市立西陵小学校

鹿児島市立中州小学校

鹿児島市立西田小学校

鹿児島市立坂元中学校

鹿児島市立吉田南中学校

私立鹿児島純心女子中学校

学校法人原田学園鹿児島情報高等学校

○ 肝属郡肝付町

肝付町立岸良中学校

○ 霧島市

霧島市立竹子小学校

霧島市立高千穂小学校

霧島市立霧島中学校

私立鹿児島第一中学校

○ 薩摩川内市

薩摩川内市立隈之城小学校

薩摩川内市立里小学校

薩摩川内市立中津小学校

薩摩川内市立里中学校

鹿児島県立川内商工高等学校

○ 曾於市

曾於市立末吉中学校

○ 十島村

十島村立中之島小学校

○ 西之表市

西之表市立古田小学校

○ 日置市

日置市立伊作小学校

日置市立伊作田小学校

日置市立伊集院北小学校

日置市立伊集院北中学校

○ 枕崎市

枕崎市立桜山中学校

○ 肝属郡南大隅町

南大隅町立根占中学校

萬造寺 齊（まんぞうじひとし） 明治19年(1886)羽島生れ。

明治38年(1905)18歳の時、第七高等学校に入学。与謝野晶子・寛に師事し、『明星』の歌人として「七高に萬造寺齊あり」といわれる。

明治41年(1908)21歳のとき、東京帝国大学英文科に入学。その後、与謝野寛の門下生になる。この時石川啄木、高村光太郎、北原白秋など多くの歌人・詩人と交流を行う。

東京大学在学中に『明星』が廃刊になり、森鷗外を中心として『すばる』が発刊される。

大正2年(1913)独力で『我等』『街道』を刊行。京都に拠点を置き、第二次世界大戦後、歌集『萬造寺齊選集』10巻が刊行される。

大正7年(1918)31歳のときに郷里に帰る。

昭和32年(1957)7月9日、肺病のため70歳で亡くなる。

同年11月、串木野市主催、鹿児島県後援の文学葬が母校である羽島小学校で行われる。

昭和35年(1960)3月、羽島崎神社境内に歌碑が建設された。

歌碑には作家である佐藤春夫選、新村出博士が書いた3首の歌と、友人矢野峰人による歌碑を建てたいきさつが刻んである。



羽島崎神社境内にある歌碑



萬造寺 齊 生誕の地